



檜原中だより

学校教育目標 「仲間とともに自らを磨き続けられる人間の育成」

京都市立檜原中学校

学校だより⑥

令和8年(2026)9月28日

校長 川上 貴由

学校教育力向上に向けたアンケート結果（生徒回答）

前号で掲載いたしました「学校教育力向上に向けたアンケート」の保護者回答に引き続き、生徒回答の集計結果を紹介します。この結果につきましては、学校運営協議会・教職員と共有し、今後の学校改善につなげて参ります。詳細は学校HPに掲載しています。*数値は「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した人数をあわせた割合になっています。

令和7年度「後期」と令和8年度「前期」との比較

*令和7年度より上がった(↑)

*令和7年度より下がった(↓)

子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で
「**京都はぐくみ憲章**」を実践しましょう!



設問	R7後期	R8
①学校生活は全般的に楽しく過ごせている	92%	94% ↑
②友達と仲良く過ごせている	96%	98% ↑
③困ったときに相談できる友達がいる	90%	92% ↑
④学校行事を前向きに取り組んでいる	94%	94%
⑤知っている人には自らすすんで挨拶ができています	***	87%
⑥学校のルールは守れている	89%	89%
⑦授業は楽しい	71%	77% ↑
⑧文章の読解力や作文・発表等の表現力が増してきた	75%	73% ↓
⑨授業で学んだことは、将来役に立つと思う	88%	86% ↓
⑩予習復習をできている	47%	52% ↑
⑪グループ学習では仲間と相談しながら、自らの課題を見つけて取り組んでいる	77%	83% ↑
⑫宿題を忘れず提出している	76%	82% ↑
⑬授業を受ける前に教室の美化、机椅子はきちんと整理されている	73%	80% ↑
⑭自分にはいいところがある	79%	86% ↑
⑮将来の夢がある	69%	65% ↓
⑯早寝、早起きを心がけている	57%	61% ↑

設問	R7後期	R8
⑰朝ごはんを毎日食べている	87%	91% ↑
⑱ハンカチをもってきている	46%	46%

●○学校生活について○●

設問①から④に見られますように、おおむね多くの生徒が学校生活に満足しているものと思われます。昨年度の課題であった「授業は楽しい」の項目も上昇傾向にあり、そのことが設問⑩「予習復習をきちんとできている」と関係していると推測します。しかし、設問⑧「文章の読解力や作文・発表等の表現力が増してきた」や設問⑨「授業で学んだことは、将来役に立つと思う」については改善されていません。

本校では、今年度よりアメリカで行われている包括的生徒指導の日本版MLA(マルチレベルアプローチ)と言われる「個が育つ集団づくり」を研究しています。この取組は集団を高めることによって、集団が個を支えたり、お互いに支え合ったりする力を向上させるものです。この取組を通して授業改善に取り組み、生徒達が学校生活を楽しく過ごせるように精進いたします。

★★自尊感情について★★

⑮の設問「将来の夢がある」は、60%台と低い数値を示しています。全国学力調査における結果では全国平均約67%となっており、本校の生徒は若干下回っている結果です。自尊感情を高めるためには、友達や先生、保護者と意見を交わせる交流欲求や、良いところを認めてくれる承認欲求を満たすことが大切と言われています。つまり、このような場面を増やしていくことが自己有用感を高めることにつながります。

本校では、咲く咲くカードを称して、行動目標に準じた行

動を達成した場合にシールで評価する取組を行っています。また、「世界の1つだけの花」を毎週の学校ホームページで更新するなど、生徒の良いところを評価する取組を行っています。このような取組が自己有用感につながり、夢を持てる生徒の育成につながりたいと考えています。

ご家庭でも、交流の場面や、褒める場面をより増やして頂き、檜原中学校の生徒達をさらに伸ばせるようにご協力ください。

全国学力・学習状況調査の結果

4月20日(月)、23日(木)、30日(木)の3日間、3年生を対象として実施されました「全国学力・学習状況調査」についての結果と考察を報告いたします。この調査は、国語・数学・英語のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査(生徒質問紙)も実施されています。英語・生徒質問紙の分析については次号でお伝えさせていただきます。

■国語

本校生徒の平均正答率は66%であり、全国平均63.9%を上回る結果となりました。中央値も全国の10問を上回っており、国語の基礎的な内容はおおむね定着していると考えられます。特に、「言葉の特徴や使い方に関する問題」や「文章や話し合いの内容を読み取り、適切に判断する問題」では、全国平均を上回る結果が見られました。一方で、「文章中の表現の効果について根拠を基に説明したり、複数の情報を関連付けて自分の考えをまとめたりする問題」ではやや正答率が低く、課題が見られます。また、「条件に沿って記述する問題」では無解答や部分的な解答をする生徒もあり、「思考・判断・表現」の力をさらに伸ばしていく必要があると考えます。

これまで国語科の授業では、文章の内容を正確に読み取るだけでなく、根拠を明確にしながら自分の考えを表現する力の育成を大切にしてきました。今後は、文章や資料から必要な情報を整理し、自分の考えと結び付けて表現する活動を充実させるとともに、目的や条件に応じて書く機会を積極的に設けます。また、交流活動を通して多様な考え方に触れながら、論理的に考え表現する力の向上を図っていきます。

■数学

本校生徒の平均正答率が55%であり、全国平均の57%と比べるとやや下回るものの同程度の習得率であることが伺えます。そのうち、学習指導領域「A 数と式」「B 図形」「C 関数」「D データの活用」の4つの領域のうち、A・Cについては全国平均を上回り、Cについては全国平均を7ポイント上回っております。

Dについては全国平均を5.5ポイント下回っており、本

校生徒の課題が浮き彫りになりました。

「知識・技能」「思考・判断・表現」を問う問題でも得意、不得意の領域毎に同様の結果が出ております。

数学は「わかること」と「できること」を分けて取り組むことで理解がさらに深まります。「わかること」は説明できること。「できること」は解答できること。その2つを意識して取り組んでもらい理解を深めてまいります。今後の指導については、今回の結果を受けて、授業の始めの時間を使い既習内容の復習を実施するなど復習の機会を増やし、定着を図ってまいります。また、「なぜ、そうなるのか?」という互いに交流する機会を増やし、「使える」数学に向けて取り組んでまいります。

学校行事の時期となりました



9月に入り、合唱コンクール(10/2開催)に向けての歌声が校内に響く時期となりました。また、体育大会(10/21開催)では今年度より縦割り活動をメインにした競技種目

が実施されます。美術部では、これらの学校行事に向けて素晴らしい日めくりカレンダーを作成し、行事の盛り上げに貢献しています。行事を通して、生徒の自己有用感の育成につながって欲しいと思います。

I組校外学習(くるみ割り人形)

1日(火)、I組が桧垣バレエ団公演「くるみ割り人形」の無料招待を受けて、ロームシアター京都で鑑賞しました。この作品は、チャイコフスキー作曲の三大バレエの一つとして世界中で上映されています。夢の中でおとぎの国を旅する物語です。I組の皆さんも、夢の世界を少しでも堪能できたら嬉しく思います。



探究学習(街プロ・ソトカラ)

2日(水)、西京区役所の副区長、地域力推進室の総務防災課長、まちづくり連携係長が来校され、2年生・3年生に西京区の現状及び課題について発表が行われました。「防災」「情報発信」「自治会加入」「選挙の投票率」「放課後の居場所づくり」という5つの課題が提示され、課題克服に向けての探究活動がスタートします。

I年生では、I学期に行った「イチカラ」を発展させ、「ソトカラ」と称して自分の興味の外側に触れる探究活動を行います。このような探究活動を通して、目指す生徒像に向けて資質・能力の育成を実践しています。